

## アドバイス・レポート

平成 20 年 1 月 25 日

平成 19 年 11 月 2 日付けで第三者評価の実施をお申込みいただいた聚楽デイサービスセンター様につきましては、第三者評価結果に基づき、下記のとおりアドバイスをいたしますので、今後の事業所の運営及びサービスの提供に役立ててください。

### 記

評価が高かった点	<p>1) I 健全な組織体制(1)組織の理念・運営方針①理念の周知と実践</p> <p>2) I 健全な組織体制(1)組織の理念・運営方針②運営方針の周知と実践</p> <p>3) I 健全な組織体制(5)人材の確保・育成②継続的な研修の実施</p> <p>4) II 適切なサービス提供体制(3)利用者等の希望尊重①利用者・家族の希望尊重</p> <p>5) III 利用者保護の観点(2)情報提供④地域への情報公開</p>
理 由	<p>1) I (1)①理念の周知と実践 『住み慣れた地域で尊厳を持ってそのひとらしく暮らし続けることを支援し』地域のニーズにこたえる、という法人の理念をデイサービスの現場でしっかり実践しておられます。西陣の伝統的な地域において町家を一部改築した「木のぬくもり」のある聚楽デイは、通所介護事業所が比較的に多い京都市内の中心地にあっても利用実績が現在も増加しつつあり、待機者もあるのは、聚楽デイに対する住民の評価が高いからだと思われれます。</p> <p>2) I (1)②運営方針の周知と実践 デイサービスのスタッフが日勤中に 30 食の配食に出かけおられ、通所利用と配食サービス利用というサービスの連続性を積極的に確保されています。その分多くなる業務量は、職員会議等で協議し、地域のニーズにこたえるという基本方針の下、スタッフ間の分業によって対応しておられます。また、法人の月例の管理委員会と聚楽の事業所とを統一の方針で運営するように、担当施設長がパイプ役となって方針の周知をしておられます。</p> <p>3) I (5)②継続的な研修の実施 法人の全職員 400 名に毎月機関誌を配付し事業の方針や研修案内を周知して、法人の学習教育部のもとに経験年数別研修の実施、職員自身の申出による派遣研修、各事業推進のため「同種協議会」や半年ごとのまとめの研究会議等、多様な取り組みをし</p>

	<p>て職員のモチベーションアップを企図しておられます。聚楽デイでも新人にプリセプター制を導入したり、職員の業務自己評価のアンケートなどを活用して育成に努力しておられます。</p> <p>4) II (3)利用者等の希望尊重①利用者・家族の希望尊重 個々の利用者のニーズを汲上げて、通所の利用回数や利用者の組合せ等を配慮されているので、利用者同士がなじみの関係になっておられ、家庭にいるように和やかに過しておられます。食事については、調理員がテーブルを廻って直接に利用者の声を聞きそれを調理に反映させておられ好評でした。また外出支援を積極的に実施して、利用者の希望を受けて夕刻からビヤガーデンやライトアップを見に出かけたり、多様な内容のサービスを提供しておられます。</p> <p>5) III (2)④地域への情報公開 地元の町内会に加入して、センターの場所を提供したり、ゲートボール大会にデイサービスとして参加したり、ボランティア委員会を設置し受入れ促進等を積極的にして聚楽デイサービスセンターの存在を地域に定着させておられます。</p>
<p><b>改善努力を要する点</b></p>	<p>1) I 健全な組織体制 (3) 労働環境①労働環境への配慮 2) I 健全な組織体制 (3) 労働環境②ストレス管理 3) II 適正なサービス提供体制 (2) 個別援助計画⑤個別援助計画の見直し</p>
<p><b>理 由</b></p>	<p>1) I (3)①労働環境への配慮 この数年利用実績を徐々に上げておられる上に配食サービスもあわせると日々のスタッフは人数面で余裕がない状態と思われま。一日のプログラムの組み方の面でももう少しバリエーションが作れるようなスタッフの配置を検討されてはいかがでしょうか。</p> <p>2) I (3)②ストレス管理 日々効率的な勤務体制を組んでおられますが、昼の休憩時間を3交代制でとっておられるので、個々の職員にとってかなり慌ただしいのではないかと思います。</p> <p>3) II (2)⑤個別援助計画の見直し 利用者の状況の変更や介護認定の更新時など個別援助計画の見直しの時期に、その見直した内容を適時に書き直して計画書に落とし込む作業がやや滞りがちでした。</p>
<p><b>具体的なアドバイス</b></p>	<p>1)、2) I (3)①労働環境への配慮②ストレス管理 法人の組織力によって人材育成を図りつつも、事業を多角的に積極的に推進しておられますので、聚楽デイの現場においても優れて個々のスタッフの労働密度が高いように思われます。事業実績・待機者等の状況から人員配置を見直して、ポイントに厚く配置されることも一考です。また、質の高いサービス提供をしておられるだけに、休憩時間をゆっくりとれる時間配分や休憩場所の設定も再考されてはいかがでしょうか。</p> <p>場所については、例えば事務スペースの隣でも和風のついでなどで視界を遮ってくつろげるようにするなど、スタッフのアイデアも募って検討する方法も考えられます。</p> <p>3) II (2)⑤個別援助計画の見直し 聚楽デイの登録者の多くは他法人のケアマネジャーの担当ケースとのことですが、ケアマネジャーとの連携の下に、通所介護の個別援助計画を作成・変更・更新等する作業のための時間の確保することをまず検討されてはいかがでしょうか。 利用者の個々のニーズ把握を基本に据えて、それを計画書に落</p>

とし込むこと、必要により修正・更新することを業務サイクルとして定着させるように、月間業務の中にプラン作業の日を位置づけてしまうこともひとつの方法です。

その他：一日のプログラムの組み方について

午前中に入浴を済ませて、午後にレクリエーションという流れで過しておられますが、個々のニーズの違いによってはスタッフの配置を変更して、入浴とレクを分散化して、午後にも入浴できる組み方も検討されてはいかがでしょうか。

送迎の順序を利用者ご自身が希望されたり、利用者の様々な要望があるでしょうが、今後更に個別ケアの対応が可能なデイサービスのあり方が、求められてくると思われまます。

(様式6)

## 評価結果対比シート

事業所番号	2670200175
事業所名	社会福祉法人七野会 聚楽デイサービスセンター
受診メインサービス (1種類のみ)	通所介護
併せて評価を受けた サービス(複数記入可)	
訪問調査実施日	平成19年11月20日
評価機関名	京都市老人福祉施設協議会事業センター

大項目	中項目	小項目	評価項目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I 健全な組織体制	(1)組織の理念・運営方針	① 理念の周知と実践	組織の理念が、利用者及びスタッフ等に周知され、法人の理事長及び事業所の管理者等（以下、「責任者等」という。）を含むスタッフ全員が、理念に沿ったサービスの提供を実践している。	A	A
		② 運営方針の周知と実践	事業所の運営方針が、利用者及びスタッフ等に周知され、責任者等を含むスタッフ全員が、運営方針に沿ったサービスの提供を実践している。	A	A
		③ 運営規程の遵守	事業所の運営規程が、利用者及びスタッフ等に周知され、責任者等を含むスタッフ全員が、運営規程に沿った事業所の運営及びサービスの提供を実践している。	A	A
	(2)組織体制	① 責任者等の協働	責任者等は、介護サービスの質の向上に熱意を持ち、事務所の運営について、スタッフと共に取り組んでいる。	A	A
		② 管理者による状況把握	管理者は、事業の実施状況等を把握し、いつでもスタッフに対して具体的な指示を行うことができる。	A	A
		③ 透明性の確保	責任者等は、公正・適切なプロセスで意思決定を行い、組織としての透明性の確保を図っている。	A	A
		④ 支援体制の充実	利用者の主治医や医療機関・介護保険施設との間で、連携体制又は支援体制が確保されている。	A	A
	(3)労働環境	① 労働環境への配慮	質の高い介護サービスを提供することができるよう、スタッフの労働環境に配慮している。	B	B
		② ストレス管理	スタッフの業務上の悩みやストレスを解消するために、具体的な取組みを行い、業務の効率を高めている。	B	B
		③ 休憩場所の確保	スタッフが充分にくつろげ、心身を休めることができる休憩場所を確保し、必要な設備・備品を備えている。	A	A
	(4)課題の設定	① 重点課題の設定	外的環境の変化や傾向を見極めた上で、事業の運営における重点課題が設定され、組織全体として課題の達成が図られている。	A	A
		② 業務レベルにおける課題の設定	各業務レベルにおいて課題が設定され、スタッフ全員が課題の達成に取り組んでいる。	A	A
	(5)人材の確保・育成	① 質の高い人材の確保	スタッフの採用時において、質の高い介護サービスを提供できる人材の確保を主眼としている。	A	A
		② 継続的な研修の実施	採用時研修・フォローアップ研修等を実施しており、スタッフは、段階的に必要な知識や技能を身につけることができる。	A	A
		③ OJTの実施	スタッフが業務を通じて日常的に学ぶことを推進しており、スーパーバイズ（指導・助言）を行う体制がある。	A	A
	小 計(A=2点、B=1点、C=0点として点数化のこと)				28

大項目	中項目	小項目	評価項目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II 適正なサービス提供体制	(1)サービスの品質の確保	① 業務マニュアルの作成	事故防止や安全確保を踏まえた業務マニュアルが作成され、スタッフに活用されている。	A	A
		② サービス提供に係る記録	利用者の状況及びサービスの提供状況等が適切に記録されており、サービス提供を円滑に行うための工夫がされている。	A	A
		③ 確実な情報伝達	スタッフ間の申し送りや情報伝達を確実に行うとともに、重要な事項については、全てのスタッフに伝わる仕組みとなっている。	A	A
		④ ケアカンファレンス	定期的又は必要に応じてケアカンファレンス（介護検討会）が開催され、意見交換が行われている。	A	A
	(2)個別援助計画	① アセスメントの実施	利用者一人ひとりの心身の状況や生活状況、利用者及びその家族の希望等を踏まえたうえでアセスメントを行っている。	A	A
		② 個別援助計画の作成	アセスメントに基づき、利用者一人ひとりの目標を明らかにした個別援助計画を作成している。	A	A
		③ 専門家等に対する意見照会	個別援助計画の策定に当たり、必要に応じて利用者の主治医・OT/PT・介護支援専門員・他のサービス事業所等に意見を照会している。	A	A
		④ スタッフの意見の集約	個別援助計画の策定に当たっては、当該利用者に関わる全てのスタッフの意見を採り入れており、共通認識に基づく目標達成が図られている。	B	A
		⑤ 個別援助計画の見直し	定期的又は必要に応じて、個別援助計画の見直しを行っている。	B	B
	(3)利用者等の希望尊重	① 利用者・家族の希望尊重	個別援助計画の策定及びサービスの提供内容の決定に際して、利用者及びその家族の希望を尊重している。	A	A
		② 希望等を引き出す働きかけ	利用者やその家族が、希望や要望、気掛かりなこと等をスタッフに気軽に伝えたり、相談できる機会を確保している。	A	A
	(4)衛生管理	① 感染症の対策及び予防	感染症の対策及び予防に関するマニュアルの作成等により、スタッフ全員が感染症に関する知識をもってサービスの提供を行っている。	A	A
		② 事業所内の衛生管理等	施設（事業所）内における物品等の整理・整頓及び衛生管理を行い、効率的かつ安全なサービスの提供を行っている。	A	A
	(5)危機管理	① 事故・緊急時等の対応	事故や緊急時等における対応等を定めたマニュアルがあり、年に1回以上、必要な研修又は訓練が行われている。	B	B
		② 事故の再発防止等	発生した事故に係る報告書や記録を作成し、事故の再発の防止のために活用している。	A	A
	小 計(A=2点、B=1点、C=0点として点数化のこと)				27

大項目	中項目	小項目	評価項目	評価結果		
				自己評価	第三者評価	
Ⅲ 利用者保護の観点	(1)利用者保護	① 人権等の尊重	利用者の人権や意思の尊重について、常に問題意識をもってサービスの提供を行っている。	A	A	
		② プライバシー等の保護	利用者のプライバシーや羞恥心について、常に問題意識をもってサービスの提供を行っている。	A	A	
		③ 個人情報保護	利用者の個人情報の保護及び職務上の守秘義務について、スタッフに徹底している。	A	A	
		④ 利用者の決定方法	サービス利用者等の決定を公平・公正に行っている。	A	A	
	(2)情報提供	① 事業所情報等の提供	事業所の概要及びサービス内容について、利用者やその家族にわかりやすく説明を行っている。	A	A	
		② 利用者に係る情報交換	サービス利用時の状況について家族に情報提供を行い、家族から家庭での状況について情報を得る等、情報交換を行っている。	A	A	
		③ 開示請求への対応	利用者やその家族から、提供を受けたサービスの内容や費用の明細等について情報開示の請求があった場合には、適切に対応している。	A	A	
		④ 地域への情報公開	事業所の運営理念を地域に対して啓発・広報するとともに、事業所の機能・知識等を地域社会に提供している。	A	A	
	(3)利用契約	① 料金の明示と説明	介護サービスの利用に際して必要となる料金について、根拠を明らかにして利用者にわかりやすく説明している。	A	A	
		② 合意書面の作成	サービスの提供開始に当たっては、利用者及び事業者双方の権利・義務を明らかにし、合意の結果を契約書等として書面に行っている。	A	A	
	小 計(A=2点、B=1点、C=0点として点数化のこと)				20	20

大項目	中項目	小項目	評価項目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅳサービスの質の向上の取組	(1)苦情解決	① 苦情・相談窓口の明示	利用者からの苦情や相談を受けつける窓口及び担当者等が明示され、利用者及びその家族に周知されている。	A	A
		② 苦情やトラブルへの対応	苦情やトラブルがあった場合には、組織として迅速かつ誠意をもって対応している。	A	A
		③ 第三者への相談機会の確保	公的機関等の窓口相談や苦情を訴えるための方法を、利用者及びその家族に周知している。	A	A
		④ 苦情に基づくサービスの改善	利用者からの苦情をサービスの向上に役立てている。	B	B
	(2)質の向上に係る取組	① 利用者満足度の把握	利用者の満足度を把握し、サービスの質の向上に役立てている。	A	A
		② 質の向上に対する検討体制	サービスの質の向上に係る検討体制を整備し、責任者等を含むスタッフ全員が積極的に参加している。	A	A
		③ 評価の意義についての周知	サービス評価を行うことの意義及び評価結果をサービス改善に活かすことが、責任者等を含むスタッフ全員に周知され、理解されている。	A	A
	(3)評価の実施	① 自主点検の実施	京都府が各事業所に配布している「自主点検表」を活用して、年に1回以上、自主点検を行っている。	A	A
		② 自己評価の実施	事業所の体制及びサービスの内容に係る自己評価を定期的又は必要に応じて行い、自らが提供するサービスの質の改善に役立てている。	A	A
		③ 第三者評価の受け入れ	客観的なサービス水準の把握のために第三者評価を受け、評価結果を積極的に公表している。	A	A
小 計(A=2点、B=1点、C=0点として点数化のこと)				19	19

【大項目ごとの点数】

大項目	自己評価	第三者評価結果
I 健全な組織体制	28	28
II 適正なサービス提供体制	27	28
Ⅲ利用者保護の観点	20	20
Ⅳサービスの質の向上の取組	19	19

【達成率換算表】

大項目	達成率			
	自己評価		第三者評価	
I 健全な組織体制	28/30	93%	28/30	93%
II 適正なサービス提供体制	27/30	90%	28/30	93%
Ⅲ利用者保護の観点	20/20	100%	20/20	100%
Ⅳサービスの質の向上の取組	19/20	95%	19/20	95%

